



令和6(2024)年度

栄南中だより

札幌市立栄南中学校

<https://www.sakaeminami-j.sapporo-c.ed.jp/>

出逢いは「成長の種」、別れは「大成長の種」

令和4年4月7日、卒業生の皆さんは本校に入学しました。入学式で当時の校長先生は、日本が打ち上げた惑星探査機「はやぶさ2」が、小惑星「リュウグウ」に着陸し、その岩石を地球に持ち帰ることに成功したお話をされました。「成功の要因として、『はやぶさ2』のチーム力を強調したい。我々はお互いに磨き合い成長してきた。非常にしつこいほど議論して、直前まで確認を進めるというしつこさが、今回の成功に結び付いたと思っている。」と記者会見でプロジェクトリーダーが述べていた言葉を通し、「一人や二人ではできないことも、仲間が集まってチームを組み、努力すれば、不可能が可能になる、そのためには失敗を恐れず挑戦すること、自分と異なる意見や価値観を認め合い、理解することが大事である」と皆さんにお伝えしました。

新入生だった皆さんの心に、新たな決意と、新たな仲間や先生方との出逢いという「成長の種」が植えられました。その翌年の5月には新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行し、コロナ禍以前の学校生活を送ることが可能となりました。心身ともに近い距離で関わり合えるようになりました。関わりの中で、学年だよりにいつも書いてあった「自分とは違う他者を認めてこそ、人と人とは心でつながり、一緒になることができる」ということを実感した三年間だったのではないのでしょうか。

私は、今年度、多くの皆さんと校長室で直接お話をすることができました。「学校が楽しいから、卒業したくない」という声をたくさん耳にしました。

一緒に空を飛んでバスに揺られた修学旅行では、夜通し降っていた雨が止み、晴天のもと、鎌倉・江の島での自主研修を行いました。暑いくらいの日差しは皆さんのエネルギーのように感じました。「笑顔と学び」あふれる二泊三日の思い出は貴重な宝物です。

最高学年として取り組んだ今年度の陸上競技会や学校祭、合唱コンクールでは、後輩たちのお手本となり、これから引き継がれる歴史を残すことができました。後輩たちに手渡す「襷」が創り上げられました。皆さんの残したものが栄南中学校の財産です。多くの挑戦や仲間との切磋琢磨により、「成長の種」から芽が出て葉が出て、色とりどりの花が咲きました。そして、次なる出逢いの春を迎えようとしています。勇気を出して自分と向き合い、保護者の方に相談し、応援してもらい、春からの自分の進む道を考えたことと思います。よく頑張りました。

この場所に出逢った仲間の多くとはお別れとなります。「出逢いは成長の種」からスタートした中学校生活、「別れは大成長の種」となるよう、今、それぞれが大きな決意をして、心に種を植えて、この場所を後にしてほしいと思います。

全ては自分の「心」からスタートします。自分だけではない、皆のため、世界のため、平和のためにと、皆さんには、ぜひ、今まで以上に学び、力強く未来を切り拓く一人一人となっていただきたいです。

栄南中学校は、そうした皆さんのふるさととして一層素敵な色とりどりの花を咲かせ続けたいと思います。

これまでの皆さんの笑顔と頑張りとお優しい心に、心からの「ありがとう」をおくります。皆さんが、皆さん自身の手で、大なる希望の未来を切り拓いていくことを念願し、私も皆さんとともに進み続けることを約束し、式辞といたします。

令和七年(二〇二五年)三月十四日 校長 (卒業式 式辞より抜粋)

送 辞

教室の窓から差し込む日差しにも春の気配を感じる季節となりました。本日、晴れてこの栄南中学校卒業式を迎えられた第四十八期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。卒業証書を手し、今、皆さんはどのような気持ちでいらっしゃいますか。

三年前の春、中学校生活への期待と不安に胸をふくらませ、栄南中学校の校舎へと足を踏み入れた日が脳裏に浮かびませんか。三年間で出会った友、並んで歩いた日々、机を並べて学んだ日々、成長してきた日々はキラキラと輝いていませんか。

私達在校生も今、先輩と過ごしたかけがえのない日々が思い出されます。

入学式では、期待と不安でいっぱいだった私達を温かく迎えてくださり、ありがとうございました。あの日から、私達の目標は先輩方でした。

陸上競技大会では、仲間への応援や労いの言葉がとびかう競技場に、夏の蒸し暑さをも忘れさせるほどの先輩方の喜び溢れる笑顔がありました。

学校祭では、個性を前面に生かした装飾やパフォーマンスで盛り上げてくださりました。準備期間、校舎の二階からは先輩方の熱心に取り組む様子を感じられ、その姿から、今期強く努力する大切さや最上級生としての在り方を学びました。テーマだった「青瞬」のとおり学校祭で盛り上がったのは先輩方の結束力そのものでした。

コンクールという形で行われるのは数年ぶりの合唱コンクール、先輩方の歌声にはプライドと力強さと美しさがありました。人の心を動かす合唱を創り上げるには、強い絆が必要不可欠だということを、先輩方の真剣な表情から学ぶことができました。

生徒会活動では、いつも優しく、温かな眼差しで支えてくださりました。先輩方からは、学ぶことばかりで、その大きな背中に憧れ今もなお、追い続ける私です。私が一番忘れられないのは学校祭です。夏休み前から活動を始め、一度も手を抜かず、ひたむきに努力する先輩方と活動したことや、前日の夜までこだわり続けて迎えた本番、皆さんの笑い声や歓声を聞いたときの感動は、今でも胸に深く刻まれています。

部活動では、笑顔で話しかけてくださったり、時には厳しく私達を導いてくださったりお世話になりました。いつも私達の先頭に立ち、何事にも諦めずに取り組む先輩方いてくださったから、部活動という時間は宝物だったのだと実感しています。次は私達が先輩方から教わってきたことを生かして、後輩を引っ張っていきます。

私達在校生は、ここでお約束します。先輩方のような背中で後輩に素敵な栄南中学校の伝統を、そしてたすきをつないでいくことを私は明日からの日々も、叶うなら先輩方とともにこの学び舎で同じ時間を分かち合いたいです。先輩方から学びたいことが、まだまだ溢れてくるからです。しかし、この願いはもう、叶いません。名残惜しくてなりません、私達なりに前進したいと思います。

今日は境に、皆さんの新たな生活がスタートします。これからの人生では、「答えがある問い」もあれば、「探し続けなければならない問い」もあるでしょう。例え、不安で胸がいっぱいでも大丈夫です。皆さんが仲間と経験した、嬉しいことや楽しいことが胸にあります。先輩方の背中を優しく押してくれる仲間や見守ってくださる先生方、保護者の方がいます。私達も応援しています。ですから、自分の人生を探しに、答えをみつけに、進み続けてください。

最後になりますが、卒業される皆様のご健康と、輝く未来へ飛躍していくことを、自分だけの「正解」を見つけることを心から祈り、送辞とさせていただきます。

答 辞

一雨ごとに春の色が濃さを増し、校庭の桜の蕾も膨らみ始める季節となりました。

本日は、私たち百六十二名のために、このような卒業式を執り行っていただき、誠にありがとうございます。

六百三日。これは、私たちが出会ってから今日まで、共に過ごしてきた時間です。何気なく過ごしてきたその日々には、かけがえのない思い出がたくさん詰まっています。

三年前の春、ぶかぶかの制服に身を包み、咲きこぼれんばかりの桜が迎え入れてくれた入学式。これから始まる学校生活への期待や不安を胸に、ここにいる仲間たちと歩み始めました。まだ完全には収束していない新型コロナウイルスに危機の念を抱きながら行った初めての行事は、校外学習でした。全て自分たちで計画し、様々な壁を乗り越えて実行することで、「中学生になった」という自覚を改めて感じることができました。二年生では宿泊学習や合唱祭、三年生では修学旅行や陸上競技大会など、この場では語りつくせないほど、どれも印象深く残るものになりました。

三年間行うことができた陸上競技大会では、どの年も一人一人が全力で競技に参加しました。学年をまたいで聞こえたたくさんの声援は、今でも耳に残っています。最後のリレーでは、先生方も参戦し、大いに盛り上がりました。青空の下、輝く笑顔で労いと感謝を込めたハイタッチをしたあの瞬間は、間違いなく私たちの青春でした。

私たちにとって、一・二年生のころよりパワーアップした最後の学校祭。学級だけでなく、学年一丸となって創り出し、さらにパフォーマンス部門も加わり、壮大で賑やかなものとなったステージ発表。SDGsを上手に取り入れながら、廊下や玄関、体育館を明るく、華やかにしてくれた装飾部門、シンボルマーク部門。それぞれどのチームも、準備から本番まで、笑顔溢れる良い学校祭でした。

十月に行われた初めての合唱コンクールでは、どの学級も最優秀賞という目標に向かって、放課後や総合の時間を利用して、努力していました。当日、体育館中に響き渡った歌声は多くの生徒の心を感動させ、涙させていました。

そして時は過ぎ、本日、卒業式を迎えました。日に日に数字が減るカウントダウンカレンダーを見ても、卒業合唱の練習をしても、なぜでしょうか。まだ「卒業」という実感が湧きません。また明日も登校して、授業を受けて、他愛のない話で盛り上がり、おいしい給食を食べて、放課後には笑い合う。そんないつもの日常が続いていく気がしてなりません。ここ、栄南中学校で過ごした日々は、かけがえのない宝物です。

在校生の皆さん、この日のために素敵な装飾をありがとうございます。三年間は本当に早いものです。一日一日を意味のあるものにし、残りの中学校生活を楽しんでください。そして、部活動でも、勉強でも、好きになったことでも、何でもいいです。努力を続けてみてください。誰にも分ってもらえなくても、結果にならなくても、皆さんが卒業するときに振り返れば、それはきっと自分を大きく成長させているでしょう。

ここまで来ることができたのは、多くの人たちの支えがあったからです。こんな時でなければ、照れくさくて言えないような気がするので、この場を借りてお礼を言わせてください。三年生の皆さん、三年間共に活動し、支えてくれてありがとうございます。皆さんと出会えたことが中学校生活一番の幸せです。一・二年生の皆さん、いつも明るく声をかけてくれて嬉しかったです。栄南中学校は、皆さんに託します。いつもそばで見守り、支えてくださった先生方、本当にありがとうございます。*先生、**先生、***先生、**先生、**先生、**先生。私たちは先生方が理想とする学年になれましたか。もしなれていたら嬉しいです。先生方から教わったことは、これからも人生に役立てていきます。私たちの健康や身の回りのことを細やかに考えてくださった職員のみなさん、ありがとうございました。そして、一番近くていつも見守り、支えてくれたお父さん、お母さん、ありがとうございました。これからも優しく、時に厳しく私たちを導いてください。

これから私たちは、それぞれの進路を一步一步自分の足で歩いていきます。今後、大きな壁にぶつかったとしても、この栄南中学校で得た多くの学びや経験を人生の糧とし、力強く歩いていきます。

最後になりますが、これまで私たちを支えてくださった全ての方に改めてお礼を申し上げますと共に、栄南中学校の益々の発展を祈念して、答辞といたします。

卒業おめでとうございます！



3月13日(木)
 うんしの下
 かしこや 巻のまじ
 -ルエとに 乃:Stたに
 っ? ちの 明日のつた
 かんかん胸に刻め
 い、最高到達点へ
 た声 響かす 作着館に
 卒業式とあはれ 1 日



第四十八回
 卒業証書授与式
 札幌市立栄南中学校